

イベント「私たちのSDGs」

廃棄繊維のイメージを変える

大学生がファッションショー

日本繊維機械学会の繊維リサイクル技術研究会が関西の10大学の研究者と学生で組織したプロジェクト

エクストリーム「エン・ウイ・クル」は23日、京都文化博物館（京都市）でイベント「私たちのSDGs」を開催し、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにしたファッションショーを開催した。大学生が廃棄予定の繊維素材を利用

イベントは同研究会「私たちのSDGs」実行委員会が主催し、日本繊維機械学会フェロー会とNPO法人未利用資源事業化研究会が共催、な

んはマルイ（大阪市中央区）が協賛する。近畿経済産業局や協同組合関西ファッション連合、日本繊維製品消費科学会、本紙「繊維ニュース」などが後援した。

「多彩」は製造工程で発生する端材や残糸を活用。ミシン糸によるバックヤリボンによるブルゾン、靴下端材を利用したプローチなどユニークさが光る。「洗練」は素材特性を生かしたリサイクル

・アップサイクルとしてリボンを使ったベストや、カーペット地によるワンピース、スーツなどが登場した。「革新」は元の素材を全く新しいファッションに利用することがコンセプト。学生たちは綿糸をワンピースやベスト、ケープに作り替えるアイデアを見せた。

ファッションショーには大阪樟蔭女子大、京都工業繊維大、京都光華女子大、京都女子大、甲南女子大、神戸大、滋賀県

立大、滋賀大、四天王寺大短期大学部が参加。作品制作だけでなくモデルや舞台演出も学生が担当した。

29日（9月4日）には、なんばマルイで作品の展示販売会を開催する。次代を担う学生が繊維製品の廃棄から生じる環境負荷を自分事として考える機会とすると同時に、来場者とともにSDGsの目標の一つである「つくる責任、つかう責任」について考えることを目指す。



漁網がワンピースならに再入

ファッションショーで披露。若い感性によって廃棄繊維のイメージを変えることを目指し

「繊維素材による新しいリアルクロースの発信」をテーマに「新用途」「リメイク」「多彩」「洗練」「革」の5カテゴリーで学生が制作した作品を披露

糸染めの共栄染色（兵地として使われており、兵庫県加古川市）は前期（2023年6月期）に本社兼工場に隣接する100平方メートルの土地・建物を取得した。これまで宅

地として使われており、今も平屋の住居が建つ。野口輝二会長は取得の背景について「工場近辺は年々、住宅が増えたり、工場の隣接する宅地

に新たな住民が来る」と騒音問題などにつながる可能性が高い。安定稼働がでなくなるので早い段階で取得することに決めた」と話す。

将来、取得した土地を活用してワインダーなどの設備を入れ、秘（かせ）上げ、巻き上げといった染色前工程の内製化を視野に入れる。同社は現在、こうした前工程を加古川近辺の専門業者に外注しているが、職人の高齢化や廃業が続き、近い将来、できなくなることが予想される。

同社は靴下用の糸を中心に綿・チーズ染めを手掛ける。60番手双糸、80番手双糸など細番手の糸を総てシルケット加工するノウハウを持つ。組

糸染めの共栄染色
染色前工程内製化も視野に
工場隣接の土地取得

糸染めの共栄染色（兵地として使われており、兵庫県加古川市）は前期（2023年6月期）に本社兼工場に隣接する100平方メートルの土地・建物を取得した。これまで宅

地として使われており、今も平屋の住居が建つ。野口輝二会長は取得の背景について「工場近辺は年々、住宅が増えたり、工場の隣接する宅地

に新たな住民が来る」と騒音問題などにつながる可能性が高い。安定稼働がでなくなるので早い段階で取得することに決めた」と話す。

将来、取得した土地を活用してワインダーなどの設備を入れ、秘（かせ）上げ、巻き上げといった染色前工程の内製化を視野に入れる。同社は現在、こうした前工程を加古川近辺の専門業者に外注しているが、職人の高齢化や廃業が続き、近い将来、できなくなることが予想される。

同社は靴下用の糸を中心に綿・チーズ染めを手掛ける。60番手双糸、80番手双糸など細番手の糸を総てシルケット加工するノウハウを持つ。組